森町水道事業ビジョン及び経営戦略改定業務委託
仕様書

1　業務の目的

本町は平成 27 年度に策定した「森町水道事業ビジョン」において、「将来にわたる安全で良質な水の安定供給を目指します」という基本理念を掲げ、これに基づき将来にわたり安定して水を供給することのできる水道を目指すべく事業運営を実施してきた。

令和２年前半から始まった新型コロナウイルス感染症の拡大や、急激な物価上昇など、本事業を取り巻く社会情勢が大きく変化してきた。そのような中、令和 7 年度には「森町水道事業ビジョン」が目標年度を迎え、新たな計画期間を迎える。

令和 6 年度には、「森町水道事業ビジョン」の改定に向けて、令和元年度に策定した「水道施設更新計画」を改定した「森町水道事業　水道施設更新計画」（以降、「更新計画」とする）を策定した。「更新計画」では、「水道施設更新計画」の進捗状況を確認するとともに、現行ビジョンで課題として掲げられていた森町浄水場の方向性を検討するための基礎資料とすべく、新浄水場規模の設定、浄水処理方法の選定、建設予定地の選定、概略図面の作成、概算事業費算出などを行った。また、管路更新計画も見直している。

本業務では、「更新計画」を基に「森町水道事業ビジョン」を改定するとともに、平成 30 年度に策定した経営戦略の改定も合わせて行う。経営戦略の改定にあたっては、料金改定を見据えて実現性のある複数ケースの財政シミュレーションを実施する。また、「森町水道事業ビジョン及び経営戦略」を策定にあたり、「更新計画」との整合に留意し、必要に応じて「更新計画」を修正する。

2　業務概要

2.1　委託名称

森町水道事業ビジョン及び経営戦略改定業務委託

2.2　委託期間

契約締結日の翌日～令和８年２月１６日

2.3　対象水道事業及び森町水道事業ほかの概要

対象事業：森町上水道事業、森町濁川簡易水道事業

表 2.1　森町水道事業ほかの概要

項目	森町上水道事業	濁川簡易水道事業	備　考
創設	昭和 48 年 3 月 31 日	昭和 41 年 5 月 28 日	
最近認可	平成 29 年 3 月 31 日	昭和 56 年 6 月	
計画給水人口	15,200 人	800 人	
現在給水人口	8,728 人	675 人	令和 5 年度
計画一日最大給水量	6,690m3/日	320m3/日	
実績一日最大給水量	3,821m3/日	408m3/日	令和 5 年度

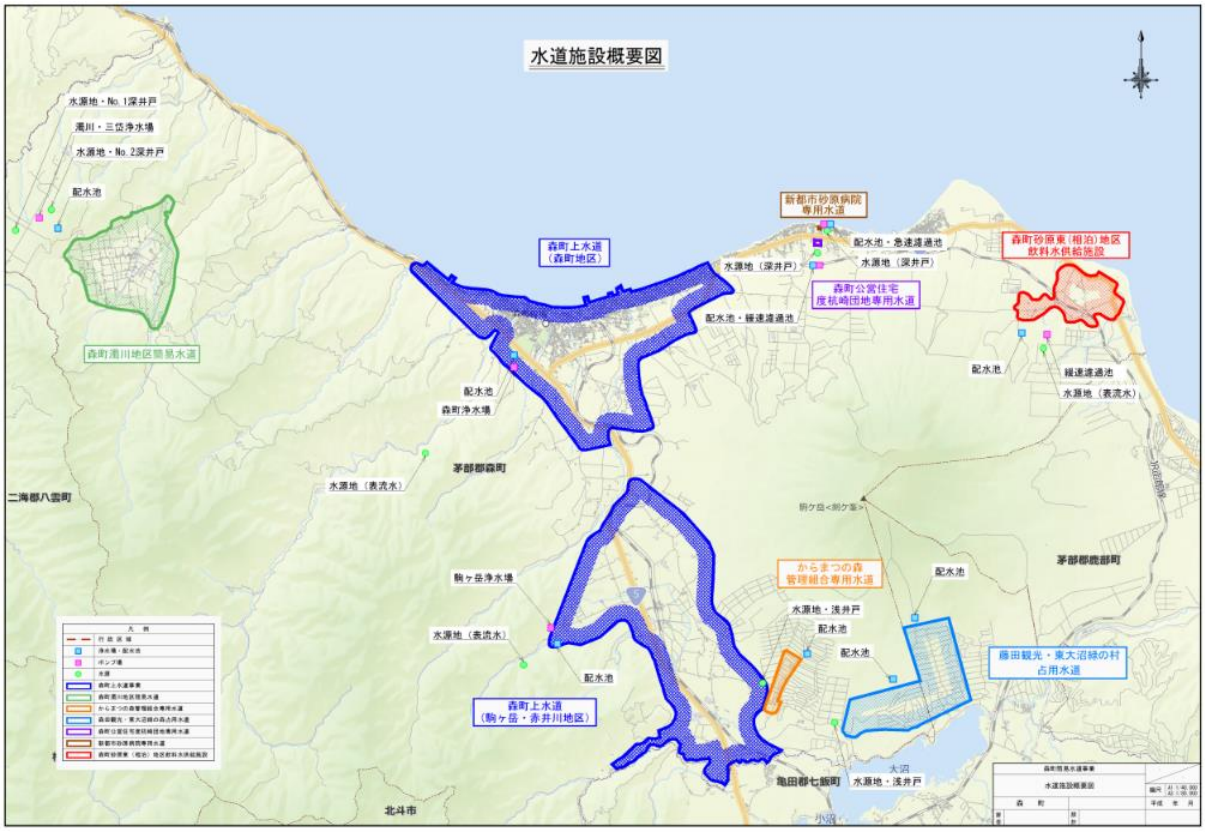

図 2.1　給水区域図及び施設位置図

2.4　業務項目

本業務における作業項目は以下のとおりである。

① 森町水道事業ビジョンの改定

② 森町水道事業経営戦略の改定

③ 必要に応じて「森町水道事業更新計画」の修正

3　業務内容

3.1　設計協議

本業務における打合せは、初回、成果品納入時及び中間打合せとする。中間打合せは業務上必要な場合、随時行うものとする。

初回協議：業務内容の確認（要望事項・内容、作業方針・工程、検討事項・ 内容等の協議確認）および貸与資料等の確認

中間協議：中間報告および作業中に発生する諸条件の処理に関する確認

最終協議：総括説明および成果品納入、検収の立会

3.2　水道事業の現状評価及び課題の把握

3.2.1　水道事業の現況把握

a）水道事業の現況把握

「森町水道ビジョン」及び「森町経営戦略」の進捗状況を評価し、見直しに必要な内容を抽出

してとりまとめる。また、本町の行政実状や水道事業の沿革を基本事項として整理したうえで、以下の情報を整理する。整理した結果のうち、可能なものはPI等を用いて近隣市町村や類似団体と比較を行う。なお、「更新計画」で整理しているものは最新年度のデータを追加して再整理する。

①取水量・配水量の状況　②水質の状況
③施設の耐震化・老朽化状況　④災害対策状況
⑤水環境の保全状況　⑥財政状況
⑦ゼロカーボンに向けた取組状況　⑧近隣市町村・民間企業との連携状況

b）水需要予測

「更新計画」において10か年の実績値を用いて、計画期間10年間及びに中長期見通しの水需要予測を行っている。今回の検討では令和6年度の値について、実績値と「更新計画」の推計値を比較し、給水人口や給水量の傾向に大きく変化がなければ、「更新計画」の推計値を用いる。なお、令和6年度の値については実績値に差し替える。

3.2.2　事業の課題抽出

「3.2.1 水道事業の現況把握」で収集した資料を基に、現況の施設面、水運用面、経営面、水質面及び維持管理面等の現状について整理し、総合的な観点より事業の現状について分析・評価を行い、課題を抽出する。

3.3　将来の事業環境

現状の評価と課題から将来の事業環境（外部環境及び内部環境）を認識し、水道事業の将来像の基本とする。参考に外部環境、内部環境、それぞれの項目を示す。

＜外部環境＞

①水需要の動向、②施設の効率性低下、③水源環境の動向

＜内部環境＞

④施設の老朽化、⑤資金の確保、⑥組織体制の維持

3.4　地域の水道の理想像と目標設定

抽出した課題を受け、今後の水道事業に必要な施策や経営の基本的な方向性を定める。「森町水道ビジョン」における基本方針、将来像、実現方策等について、以下に示す「新水道ビジョン」に示されている理想像や基本理念を踏まえて必要に応じて修正や追加を行う。

水道の理想像は、今後、取り組みを進める上で水道関係者が共通目標として認識ができるよう、水道事業の現状及び地域特性等を踏まえ、水道事業の使命である「安全な水を安定的に供給でき、すべての住民がいつでもどこでも飲める水道」の視点に留意して設定する。

基本理念に基づく主要施策の目標設定は、「新水道ビジョン」に示された施策群ごとの定量的・定性的な目標の実現に留意しつつ、下記①～③の項目について森町の地域特性等を踏まえ、計画期間内における適切な目標の設定を行う。

①安全－水道水の安全の確保
②強靭－確実な給水の確保

③持続－供給体制の持続の確保

3.5　実現方策の検討

実現方策は、主要施策にて設定された目標を実現するための具体的な施策について、下記①～③の施策群ごとに森町水道事業が実施すべき方策の検討を行う。

①安全－水道水の安全の確保

いつでもどこでもおいしい水を飲める水道

②強靭－確実な給水の確保

災害、事故等による被災を最小にとどめ、迅速に復旧できる水道

③持続－供給体制の持続の確保

健全かつ安定的な事業運営ができる水道

3.6　財政収支計画

財政収支計画は別途実施する経営戦略の結果を使用する。

3.7　検討の進め方とフォローアップ

PDCA サイクルに基づく進捗管理手法、ロードマップ、公表、フォローアップについて検討・整理する。

3.8　水道ビジョンの作成

今後、本町が PDCA サイクルにより継続的に最適化を図り、かつ進捗状況をモニタリング・評価し得るよう、目標達成度を客観的に評価できる方法や事後評価結果等の適切な公表の時期、方法、開示する内容等について検討する。なお、本ビジョンの第三者への意見聴取方法はパブリックコメントを予定している。

3.9　経営戦略の改定

本項では、「「経営戦略」の改定推進について」（令和 4 年 1 月 25 日付け総務省自治財政局公営企業課室長ほか通知）により、通知された「経営戦略策定・改定マニュアル」に基づき、森町水道事業経営戦略を改訂する。

「3.2.2 事業の課題抽出」において整理された経営的な課題を踏まえて、町民の生活基盤となる社会資本として水道サービス水準の維持向上を図るとともに、公営企業として安定的・継続的な事業経営を推進するため、経営戦略を改定する。

3.9.1　計画期間の策定

計画期間は令和 8 年度から 10 年以上を基本として、中長期的な視点から経営基盤の強化等に取り組むことができるように、合理的な期間とすることとし、上下水道サービスの維持に不可欠な施設・設備の維持・更新に必要な期間を設定する。

3.9.2　目標設定

「投資試算」、「財源試算」のそれぞれにおいて、将来的にクリアすべき水準（課題解決）を踏まえて、計画期間内に達成すべき目標を設定する。なお、目標設定にあたっては、既往経営戦略

で設定された目標を勘案し、適切なものを設定する。

a）投資試算の目標設定

計画期間内に行う事業により達成する目標を、経営戦略ガイドライン改訂版に紹介されている以下の指標値を用いるなどして設定する。目標に活用する指標は、森町水道事業の実情を勘案し、適切なものを設定する。

＜目標に活用する指標例＞
・管路更新率
・有収率
・施設利用率

b）財源試算の目標設定

計画期間内の経営の見通しなどを勘案して、「経営戦略策定・改定マニュアル」に紹介されている以下の指標値を用いるなどして設定する。目標に活用する指標は、森町水道事業の実情を勘案し、適切なものを設定する。

＜目標に活用する指標例＞
・経常収支比率
・料金回収率
・企業債残高対給水収益比率
・流動比率

3.9.3 経営シミュレーション

a）年次別事業計画の策定

「更新計画」に示されている事業計画をベースとし、前項で設定した優先順位付けを勘案の上、今後の建設計画（整備計画）を作成する。なお、「更新計画」の事業計画を本業務で修正した場合は、「更新計画」の事業計画も修正する。

b）年度別事業費の算出及び財源計画の策定

前項で作成した事業計画に基づき、年度別の事業費を算出し、これらの事業を遂行していくための財源の確保方法について整理する。財源確保方法としては以下に示す事項が考えられる。

①料金改定
②補助金の活用
③一般会計からの繰入金
④企業債

c）経営シミュレーションの実施

水需要予測結果にもとづき、事業計画を反映した最新の財政シミュレーションを実施し、過年度に策定した経営戦略で示された結果と比較し、現状評価と今後の課題を整理する。財政シミュレーションは、事業の継続可能な経営目標を勘案しながら、料金改定率や料金改定時期、起債計

画等を変更した複数案実施する。収支均衡が図れない場合は、年次別事業計画や財源計画を見直し、再度シミュレーションを行う。なお、財政シミュレーションは長期的な計画に基づくものとし、30～50 年先までの財政シミュレーションを実施する。料金改定を見据えて実効性の高い財政シミュレーションを実施する。

3.9.4　改善方策

経営シミュレーション結果を基に、「経営戦略策定・改定マニュアル」に示されている以下の内容を参考に、森町水道事業の実情に合った改善方策を検討する。

①投資の合理化・経常経費の見直し
- ・広域化等
- ・民間活用
- ・施設・設備の廃止・統廃合（ダウンサイジング）の検討
- ・性能の合理化（スペックダウン）
- ・予防保全による適切な維持管理（長寿命化）

②料金改定

③その他
- ・組織再編
- ・職員給与の適正化（諸手当の適正化等）
- ・情報通信技術の活用（ICT の活用による業務改善等）
- ・新技術の活用（省エネ技術や長寿命な管路の導入等）
- ・企業債金利の低減（借入条件の工夫等）
- ・契約条件の合理化（契約期間や発注単位の工夫）
- ・資産の有効活用（遊休資産の売却、貸付等）
- ・基金の適切な運用（債権運用の導入等）
- ・付帯事業の適切な実施（小水力発電や太陽光発電等）

3.9.5　経営戦略の改定

これまで検討した内容を総務省が策定を指導する公営企業の経営戦略の項目や「経営戦略策定・改定マニュアル」を参考に取りまとめ、経営戦略の改定を行う。なお、経営戦略の内容について、以下に示す事項を全て満たすものとする。

①企業（事業）及び地域の現状と、これらの将来見通しを踏まえたものであること。

②計画期間が 10 年以上となっていること（やむを得ず 10 年未満とする場合、その理由について住民・議会に説明されていること）

③中長期（30～50 年超）における財政シミュレーションが実施されていること

④計画期間内に収支均衡していること（収支均衡していない場合でも、収支ギャップの解消に向けた取組の方向性や検討体制・スケジュールが記載されていること）

⑤効率化・経営健全化のための取組方針が示されていること。

⑥進捗管理（モニタリング）や見直し（ローリング）等の経営戦略の事後検証、更新等に関する考え方が記載されていること。
⑦住民・議会に公表されていること。

4　成果品

本業務の成果品取りまとめに際しては、あらかじめ監督員の指示を受けること。成果品は次の図書とする。

・検討書　1部
・森町水道事業ビジョン　1部
・森町水道事業経営戦略※１　1部※２
・森町水道事業経営戦略（経営戦略ひな型様式　別添 1-2）　1部
・上記電子データ（公表用 PDF データ含む）　1式

※１：チェックリスト含む
※２：業務担当員との協議により、水道事業ビジョンと経営戦略を合冊にすることがある。